

# 大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員REPORT

定年までは山歩き

## 今はだいたいとうのまち歩き

「私は市民学芸員」も八人目です。今回は大東市に住んで四〇年、中下志津子さん。お勤めの時は、大東市について何も知らなかったと言います。市民学芸員活動のなかで知った大東市の魅力とは？

中下志津子さん  
泉町1丁目在住

・大東市には何年くらいお住まいですか？

ここで生まれた娘がもう四〇年から、大東市には四〇年になります。長いこと住んでいるわりには、大東市のことを全然知らなかったのですよ。現役で仕事していた時は、市報もまともに読んでいたことがなかったのです。朝起きて、会社に行くと、帰りにスーパー行って、帰ってきてご飯こしらえて毎日その繰り返しでした。

・市民学芸員講座を受講されたきっかけは？

もともと歴史に興味があったというよりは、「大東塾」という講座を通して、大東っておもしろいなと思う、もっと大東のいいところをみつきたいと思っていました。

そんな折、市報を見ていたら『市民学芸員募集』っていうのがありました。どんな

### わたしは市民学芸員



毎日横切っている道が「古堤街道」というのを知って嬉しくなったという中下志津子さん

な講座なんやろうと思う、ずっと迷っていたけど、締め切った後に、やっぱり気になるので電話したのですよ。

・受講後二年目、市民学芸員をやってみようと思ったのは？

おもしろかったから。時々、やっぱりもうあかんわ、やめようかなって思うのだけど、次、思い切って行って

みたら、やっぱりおもしろい。また次の日からも行くってなり、ずーっと続いているのです。

館長や学芸員さんに、市内の神社・仏閣・街道の道標、その他いろいろな所を案内していただきながら続けていくなかで、結果的に市民学芸員として、大東市を人に紹介できるようになった。最近では、大東ってええとこやでって、胸張って言っています。

・市民学芸員を続けてこれられて、嬉しかったことは何ですか？

私は古堤街道を知らなかったのですよ。定年になって時間に余裕ができた時、古堤街道の文字を見て、どこやろう？と思っていたら、なんと我が家のすぐ近く。定年まで毎日の通勤で横切っていた道が古堤街道だったと知って、なぜか嬉しかった。

「古堤街道」に限らず、今まで知らなかったことをいっぱい教えてもらえると、嬉しいです。  
(次頁下段につづく)

## 第四回目の講座 開催中

発足して四回目となる「(市民)学芸員体験講座」が四月二十五日開催しました。今回も昨年通り「大東の歴史」「美術資料の見方・扱い方」「考古資料の見方・扱い方」「文献資料の見方」など全二講座です。講座もますます定着した感じが有り、大東市在住の人に限らず、年齢層も「現役」の方も含め幅広いように思えます。私たちも、みなさん「志を果たせられ次の年ご一緒に活動できますよう、毎回修了までお手伝いさせていただきます。



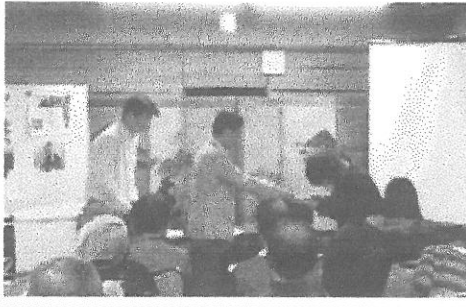
「資料調査の方法」をグループで検討されるみなさん

### 市民学芸員候補 二五名に修了証を

平成二六年度 学芸員体験講座

平成二六年度の学芸員体験講座の最終回が行われました。

これまで、昨年四月の「ガイダンス」には始まり、「考古資料・民俗資料・文献資料・美術資料の見方・扱い方」「市内文化財見学」といった講座が行われてきました。講義を聞くだけでなく、実物資料に触れたり、調査の方法を体験したり、市内の文化財を見学した



笠井館長からお一人ずつ「修了証」を手渡されました



修了式後のベットボトルでの親睦パーティーです。

りするなかで、学芸員や資料館について、よく知っていただけだったかと思えます。そして、年一二回行われた講座のうち、一〇回以上の出席で修了証が手渡されます。  
平成二七年三月一四日、学芸員体験講座の修了式が行われ、二五名の方が修了証をうけとられました。

### 古堤街道探索 龍間から生駒駅で 総仕上げ

水永八十生

市民学芸員の独自活動として、大阪と奈良を結ぶ古道である古堤街道を大阪天満から龍間までは歩いてきました。いよいよ今回県境を越えました。幸運にも寒波の合間となった十二月二十一日午後、一六名で龍間から俵口を経て近鉄生駒駅近くまでの街道歩きです。そのあたりは山間部のため比較的街道らしさを残しています。歴史民俗資料館の館長をはじめ四名の専門家のコメントを得ながら、点在する道標や信仰関連の石造物や建物を確かめつつの四時間でした。

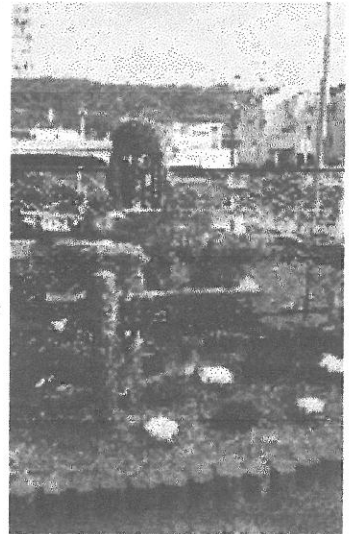
### 市民学芸員の おすすめスポット

### みんなで育む 大東のよさ 観音浜

氏原稔夫

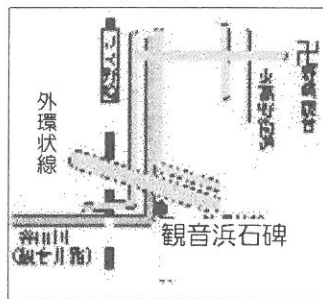


その昔、舟で野崎詣りをする人が降り立ったという観音浜。中年の男性が、真夏の酷暑のおり池に日除けサテンで魚を守り、日常、心ない人が捨てた弁当がら、ジュースの空き缶をかたづけしてくださいます。おかげで、小さなジオパークが和みます。



観音浜の石碑

先日は正月用か葉牡丹が植えられていました。さらに、菜の花の種を蒔かれていたので、「野崎小唄」の・・・どこを向いても菜の花ざかり・・・が見られるでしょう。みんなで、大東のスポットを育てていきたいですね。



JR野崎駅から観音浜へ

(前頁からつづく)  
・山登りを趣味にされていた中下さん、大東市おすすめスポットを教えてくださいませんか？  
あちこちありますが堂山古墳もです。雪景色、あれを見たら、絶対に堂山古墳が最高です。春も、一面緑のじゅうたん、ほんわかしているし、階段をあがれば市内はじめ、大阪市内までみわたせる眺望。北側斜面には、大きなネムノキの木。ちょっとこっちに手を伸ばしているようで、めっちゃかわいい花が咲くのよ。あれ切らんといはほしい。  
・これから市民学芸員の活動のなかで、やってみたいことは？  
私だけの考えやねんけど、面白そうな民話を、紙芝居で作ってみたいかなと思うのです。市民学芸員、みんなで作りたい。完成したら、民話の紙芝居が、歴史に行ったらあるよって言えるやん。

(聞き手 武井二葉)

平成27年度

# 市民学芸員がとりくむ 5つの主な事業

田植えから収穫・試食まで  
「お米づくり隊」の計画

資料館と大東市立青少年野外活動センターの共催事業としての米作りに、今年から市民学芸員も「お米づくり隊」として参加しています。これは資料館収蔵の農機具を現役復帰させ、実際に使って体験しようという計画なのです。

刈りです。勿論最後は、みんなで賞味しよう、という楽しみが待っています。現在田植えまで進み、畦に木綿の種も撒かれました。さあ大阪河内の田んぼの形はできました。次はチョット歳を重ねた私たちが、これからの暑さに耐え「やめ隊」にならないよう頑張り、次号でご報告まで行けるかが課題です。

お米UVS隊

襖から

古文書探し隊

襖の下貼りを  
はがしながら  
古文書に慣れる

学芸員

体験講座

サポート隊

現在の体験講座  
受講者を修了ま  
てお世話する。

だんじり

PR隊

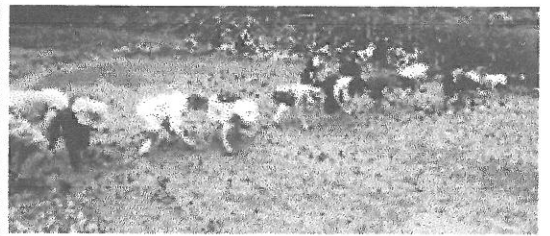
秋の「だんじり  
展」のイベント・  
企画を考える

博物館・学校の

よりよい関係

作りの隊

学校の団体見学  
や出前授業を  
サポート



④「定規」を使って、横一列に並んでの田植え。「田植え歌」が聞こえてきそう。  
⑤ 牛に代わって馬鍬を引く、学芸員のお二人。

## 「観音全図」の 謎は解けるか

野崎観音境内  
石造物調査

三月に市民学芸員提案事業として、野崎観音境内石造物調査が二日にわたり行われました。

初日は、傘をさし足元不安の日となりましたが、総勢十二人、石灯笼や供養塔にへばりついて文字をよみました。

今回の調査で、三門下の石段途中の燈籠が明治八年らしいと分かりました。であれば、製作年代不明の境内絵図「河内野崎山観音全図」は明治期のもものなりそうです。確かに描かれている人物を見ると刀を差した姿がありません。南條神社も、実際とは違って



野崎観音境内の石燈籠の銘を、傘をさして調査する市民学芸員

観音の境内とは独立しているように描かれています。明治になっての神仏分離の反映とも考えられます。しかし、在るはずの三門が「野崎観音全図」になぜ無いかなどの謎はまだ残ります。いろんな知りたいこと、まだまだ尽きません。

(水永八十生)

## 第1回 ニコニコ講座

だんじり  
車楽の

起源を求めて

菅田八幡宮

宝物館へ

氏原稔夫

近鉄古市駅下車すぐ、ヤマトタケルを祀る白鳥神社について笠井館長から説明を受けました。有名考古学者を輩出した古市小学校前を通り、竹内街

道へ入り「ちまた」と「あてまげ」の語源や、かつての鍛冶師宅跡、そして西琳寺の五輪塔は、笠部分の反りから鎌倉時代のものであるという説明等を受けた。

菅田八幡宮は、欽明天皇の勅願で、応神天皇、仲哀天皇、神功皇后を主祭神として建立されたとのことで、応神天皇陵とされる陵を守るための神社だそう。

神主さんから、種々の説明を受け、宝物館を公開してもらって、大変驚きを覚えた。車楽は煎輪が二つの三輪車で、「だんじり」のはじまりと記されていた。祭りの時、藤花を舞台に飾り付けるらしい。祭りの際、源氏の氏神が八幡である信仰から、源氏の名のある武士が参拝した。源頼朝から奇進を受けた国宝の塵地螺鈿金銅装神輿が目の前で手に触れる位置にあった。中世に秀吉から杜領二百萬石の寄進があり、秀頼からも社殿再建に際し、その普請奉行としての片桐且元書名の棟札が展示してあった。

資料館主催「第1回 ニコニコ講座」での一日でした。

### 甲冑と多数の鉄製品

#### 堂山の一号墳の時代背景を

氏原 稔夫

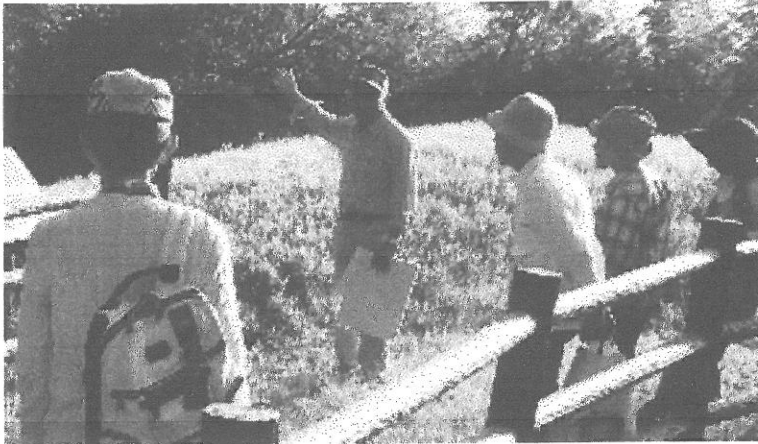
大東市立歴史民俗資料館主催で、宮谷古墳石室・専応寺・とめやん狸の石碑・堂山古墳群・めこの橋跡、の市民案内ツアーで、私は宝塔神社から一四七段登った堂山古墳群中のメインになる一号墳を担当した。

かつて古墳時代には、大阪湾から河内湖に入ってくる構造舟を見付けやすい眺望であったはずが、当日はもやにビル群が少しかすんで、大阪平野の遠望もできず、見学者も大阪城が見えなく残念がっていた。

一号墳の最大の特徴である副葬品では、多数の鉄製品があげられる。特に甲冑は、三角板の鉄板を重ね綴られたもので、渡来人が持ち込んだ鉄を鍛冶して作られた、当時としては、すごい技術力であった。

当時の時代背景は、中国五胡時代から南北朝時代に戦乱と気候変動とあいまって、朝鮮三国(新羅、百済、高句麗)から倭国へと渡

堂山一号墳の案内をする  
氏原さん(写真中央)



学芸員体験講座 「市内文化財見学」

来してきた人々がいた。それを、応神大王が技術集団としてとり入れた。堂山古墳群の甲冑は、大王から北河内の支配を任せられ、下賜されたものであるのか。古市古墳群の一つである野中古墳から出土したものと相似している。このように「鉄」の出現で武器、農耕具が作られ、文化が大きく変ったと説明した。つたない説明であったが、見学者によく聞いていただいていた嬉しかった。

### 雨が降ったら どうすんねん

見学会当日の両面作戦

松井 健一

今回の堂山古墳の案内ガイドは歴史民俗資料館で実施されている学芸員体験講座受講生の皆さんが対象です。

初めて古墳を身近で見るともいるのではないかと思い、史跡広場オープン日のアクシデント等の話題を含め、少しでも堂山古墳に興味をもってもらうような説明内容を組み

### 市民学芸員の おすすめのスポット

#### 住道駅前大橋 での夕涼み

中下志津子



住道駅前大橋から西方を望む

住道駅前大橋。夜景を見ながらの夕涼みが好きです。二年前にこの夜景に気づいてからは、日々のウォーキングコースに入れています。夏、日は暑いので日が沈んでから出掛けるのですが、我が家から住道駅前大橋まで歩くと、汗びっしょりになります。そこで、駅前大橋で一休み。橋の欄干にもたれ、西側の夜景を眺めると、日中の暑さもうそのよう。川面から吹きあげて来る涼風はエアコンの風とは違い、とてもこころよく、遠くにきらめく街の灯りと対向の橋の上の八尾枚方線を行き来する車のライト。そして川面に映る両サイドの街の灯り。  
どこか見知らぬ国にいるような錯覚を起してしまうのは、私だけでしょうか？

立てましたが、当日はいつものようにアドリブが先行しました。  
当日が雨ふりだったら野外での見学会が出来ませんので「さあどうするねん」。室内で市民学芸員をアピールするとともに、大東市を紹介しなければなりません。そこで

思いついたのが、以前探索したところのある大東市の神社、お寺の調査結果をわかり易く紹介することでした。しかし準備はしましたが、市内見学会当日は晴れ。  
私としては自信作だったが、残念ながら使われずパソコンの中で寝ています。

「専応寺の手水鉢」

大坂城再建の

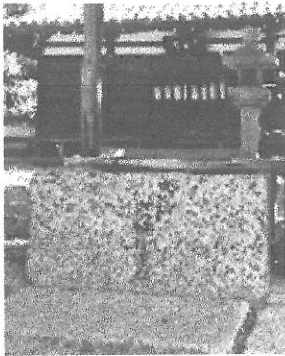
エピソード

友田晴通

専応寺の境内に「寄附 京極丹後守」銘の手水鉢があります。

由来書によりますと、「今から約四百年前の元和年間、大坂城築城の際に京極丹後守高知が、野崎山ろくの石の切り出しの命を受け、当寺に陣屋を設けた。そのお礼として手水鉢が寄進された」ということです。

大坂の陣で秀吉の建てた大坂城は焼失、豊臣家は滅亡し、以後徳川の天下が続くこととなります。その政権維持には種々の政策がとられました。その一つが徳川のシンボルタワーとしての大坂城の再建でした。豊臣の



専応寺境内の手水鉢

資料館周辺の史跡を第三回講座受講の方々に対象に研修を兼ねて案内させていただきました。そのときの感想です。

城より高く、より大きく設計されました。城の建設は縄張、造成、石積と進められます。豊臣の城の縄張りには軍師で有名な黒田官兵衛でしたが、徳川の城では大名の藤堂高虎に縄張りを命じました。早い段階で石材が必要となります。幕府は石の切り出しを大名たちに命じますがその一人が京極丹後守高知でした。丹後守は無事役目を果たしましたが、この時陣屋にしたのが、現場に近い専応寺でした。



専応寺で案内をする友田晴通さん(写真中央)

市民学芸員 活動の記録(概要)  
2014年9月～2015年3月まで

- 9月13日(土) 25日(木) 10月16日(木) 23日(木) 学芸員体験講座「市内文化財見学」打合せと下見、リハーサル
- 10月5日(日) 市内だんじりの彫物を比較するため、調査方法についてレクチャー。
- 10月12日(日) 19日(日) 24日(金) 市内だんじりの彫物を比較するため、現地調査・撮影。
- 10月25日(土) 市内の身近な文化財について、学芸員体験講座受講生を案内。  
⇒詳しくは本誌4～5ページ参照
- 11月16日(日) だんじりの市内撮影の調査結果を報告・データ集計、
- 11月23日(日) だんじり調査の成果について、展示の方向性を討議。「展示とは」という内容で京都造形芸術大学大野木啓人氏よりレクチャー。
- 12月6日(土) 「だんじりの彫物～小松源助から探る～」展の内容・手法・進行等について協議。
- 12月21日(日) 「古堤街道を歩く～龍間から生駒～」コース・案内。 ⇒本誌3ページ参照。
- 12月25日(木) 「だんじりの彫物～小松源助から探る～」展で使用する映像を撮影。
- 1月11日(日)・27日(火) 「だんじりの彫物～小松源助から探る～」展の展示パネルや映像の作成について打合せ。
- 1月18日(日) 展示会議 「だんじりの彫物～小松源助から探る～」展について、
- 2月4日(水)～6日(金) 学生とともに「だんじりの彫物～小松源助から探る～」の展示準備。
- 2月7日(土)～2月28日(土) 「だんじりの彫物～小松源助から探る～」展 学生とによるだんじり調査の成果を展示。  
この間の諸活動は、「だんじりを活かした地域共働事業」報告書の第3章を参照してください。
- 2月22日(日) 講演会「大東市の民家のみかた」文化財保護審議委員の吉田高子氏の講座。
- 3月9日(月)・16日(月) 野崎観音石造物調査  
⇒詳しくは本誌3ページ
- 3月14日(土) 平成26年度 学芸員体験講座の修了式。  
⇒詳しくは本誌2ページ

「市内文化財見学」受講者感想  
学芸員体験講座の方

市民学芸員さん方が、余談(呪いのくだりなど)も面白おかしく話してくださって、聞きやすかったしわかりやすかったです。最初だけですが、マイクの調子が良くなって、残念でした。  
資料館の周辺をほんの二時間歩きまわっただけで、こんなに色々なスポットをめぐることができて、個人的にはすごく楽しく充実していました。

襖の中から歴史を探る

「襖から古文書探し隊」

学芸員提案事業としての「襖から古文書探し隊」は、専応寺の古い襖を借りてきて、裏打ちしてある和紙を丹念にはがして、隠れた歴史・風俗が浮かび出ないか調べています。はがすのに苦労する場面もあります。しかし帳簿類などが多く、内容にとても興味があります。それに古文書に慣れ親しむべく、「河内名所図会」を原文をばちばちと読み下したりしています。

市民学芸員の  
おすすめのスポット

飯盛山眺望と  
いにしへの湖をしのぶ  
河内街道の道標付近

中村義之

街道という言葉には、一度も行ったことがない土地に、かつて行ったことがあるような感覚にさせられる。これを既視感とでもいうのであろうか。

大東市内には、東高野、古提、河内街道の三旧街道が通っている。その内の一つ河内街道は、枚方市から八尾市を結んだ街道名です。住道駅から寝屋川沿いに北に上り、深北橋を東に折れ権現川(暗渠)沿いに進むと、左側に二基の道標が見える。

道標には、左記の通り記されている。

一基

- (右) 路四條驛停車場 拾壹丁四拾四間  
路枚方町国道第二号路線分岐
- (正) 河内街道 三里
- (左) 路住道停車場 貳拾壹丁拾八間
- (裏) 明治三十六年四月改造 大阪府  
二基
- (右) 明治三十五年五月新設 大阪府
- (正) 左 河内街道
- (左) 右 河内街道

道標の正面には三好長慶の居城があった飯盛山が遠望でき、左側には田畑が広がっている。その奥には大昔、大阪平野



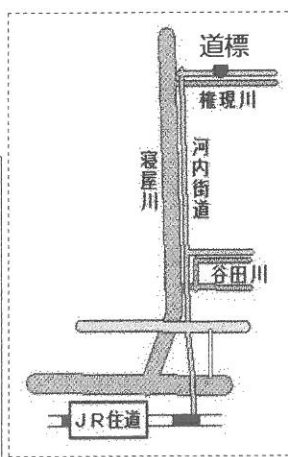
7月18日(土)から8月31日(日)まで上記のポスターのように、資料館で「昼からナイトミュージアム」が行われます。「夏休みはくらーいれきみんで探検だ」。中身は市民学芸員にもまだ教えてもらえません。ご期待下さい。



河内街道の道標2基のあたりから東方を望む

に立つと、都市化された大東市にもこのようなスポットがあったかという不可思議な感覚におそわれ、なにやらいやされる思いにさせられる。

この道標が河内湖であつたころの名残りの池沼、深北緑地が眺望できる。



住道駅から道標に至る略図

昼から ナイトミュージアム 関連事業

- 夏休みにはくらーい夜のお墓(古墳)へ登ってみよう
- とき 8月2日(日) 23日(日)
- くらやみであそぶ「夜のしりょうかん」
- とき 8月16日(日) 30日(日)
- ほか
- お申し込み受付中

詳しくは「チラシ」をごらんください

編集後記

ようやく八号の発行までこぎつけることができました。各方面にご迷惑・ご心配をおかけいたしました。武井二葉▼市民学芸員の推す「大東おすすめスポット欄」を始めました。大東への視野をさらに広げてくれることでしょう。友田晴通▼この話が「内向き」・マンネリに陥らないよう気をつけねばと、いま思っています。中西昭治▼文章を書くのに目が疲れる感になりました。松井健一▼専心寺さんの襖の下張りを丹念に剥がしています。解説すると、びっくりするような事柄が出てきそうです。楽しみです。宮本喬▼市民学芸員の人数も増え、多士済々、活動の幅も広がったので、その様子を伝えられるよう努力します。水永八十生

市民学芸員REPORT  
第8号編集委員

- 友田 晴通
- 中西 昭治
- 松井 健一
- 宮本 喬
- 水永八十生
- 武井 二葉